

「大崎町リサイクル未来創生プログラムの共同開発に関する連携協定」を締結
— 連携事業の第1弾として「大崎町リサイクル奨学パッケージ」を共同開発・推進 —

4月10日、大崎町、鹿児島相互信用金庫、慶應義塾大学 SFC 研究所（以下、SFC 研究所）は、「大崎町リサイクル未来創生プログラムの共同開発に関する連携協定」を締結しました。

「リサイクル率 11 年連続日本一の町」の実現など、住民力や自治体職員の力を発揮してきた大崎町、地域とともに活動する「超地域密着経営」を行う鹿児島相互信用金庫、「未来を先導する実学と人材育成」を行ってきた SFC 研究所の連携により、「大崎町リサイクル未来創生プログラム」の研究開発と実践を行い、大崎町、鹿児島県、日本、さらにはグローバルに未来を先導する社会システム構築と人材育成を推進します。

その一環として、大崎町の町民が世界各地で活躍すること、そして、地域に戻って、さらなる活躍をすることを支援することを主旨とする「大崎町リサイクル奨学パッケージ」（次ページ 参考 2）を共同開発事項といたします。SFC 研究所（社会イノベーション・ラボ）の助言、大崎町と鹿児島相互信用金庫に関わる産官学労金言の協力のもと、大崎町と鹿児島相互信用金庫が相互に連携し、研究開発と推進に取り組みます。

【「大崎町リサイクル未来創生プログラムの共同開発に関する連携協定」について】

1. 概要

大崎町、鹿児島相互信用金庫、SFC 研究所は、未来を先導する社会システム形成と人材育成に資するため、以下の事項について協働での研究開発と推進を行うこととし、「大崎町リサイクル未来創生プログラムの共同開発に関する連携協定」を締結しました。

（連携事項）

- （1）大崎町の地方創生、地域活性化、グローバル戦略、未来戦略に関すること。
- （2）「リサイクル奨学パッケージ」の研究開発・推進・普及に関すること。
- （3）地方創生や地域おこし、社会イノベーションを担う人材の育成と交流に関すること。
- （4）大崎町・鹿児島相互信用金庫・SFC 研究所の知的、人的および物的資源の活用に関すること。
- （5）その他、本覚書の目的を達成するために必要な事項。

2. 協定の締結式

日時： 2018年4月10日（火）13:00～

場所： 鹿児島相互信用金庫 そうしん本部ビル（鹿児島市与次郎1丁目6-30）

出席者： 大崎町 東 靖弘（大崎町長）

鹿児島相互信用金庫 稲葉 直寿（理事長）

慶應義塾大学 玉村 雅敏（総合政策学部教授、

SFC 研究所社会イノベーション・ラボ代表）ほか

<問い合わせ先>

- 大崎町 総務課秘書係（中野）
電話：099-476-1111、FAX：099-476-3979
- 鹿児島相互信用金庫 そうしん地域おこし研究所（白石）
電話：099-259-5222、FAX：099-259-5227
- 慶應義塾大学 SFC 研究所 社会イノベーション・ラボ（菅井・稲垣）
電話：03-4590-0444、FAX：045-330-4343、E-Mail：si-lab@sfc.keio.ac.jp
- 配信元
慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当
電話：0466-49-3436、FAX：0466-49-3594、E-Mail：kri-pr@sfc.keio.ac.jp

(参考 1) 連携協定締結の背景

1. 鹿児島相互信用金庫は、大崎町に支店を設置し、長きにわたり、地域住民の豊かな生活や地域企業の安定的な事業活動に向けて金融面における支援を実施し、大崎町における様々なリレーションを構築してきました。
2. 大崎町は、ゴミ処理に関する課題を抱えていましたが、住民力や自治体職員の力を発揮し、地域を挙げた実践や仕組み化と、持続的な挑戦を行ってきました。その結果、「リサイクル率日本一のまち」となり、11年連続で日本一のリサイクル率となっています（2018年3月現在。2016年度のリサイクル率83.4%）。リサイクル事業は、ゴミを資源化することで安定的な収益事業にもなっています。
3. 大崎町が生み出したリサイクルの仕組みは「大崎システム」と呼ばれ、JICA（独立行政法人国際協力機構）との連携の下で、2012年より、インドネシア（デポック市、バリ州）にて国際協力に取り組み、開発途上国におけるゴミ処理の課題に対しても、一定の成果を上げています。
4. 慶應義塾大学の玉村雅敏教授は、2015年に世界各地での社会イノベーションモデルについての調査研究を行っている際に、インドネシアのデポック市にて、「大崎システム」による実践を紹介され、詳細に現地での調査研究を実施。その後、大崎町を繰り返し訪問し、さらなる調査や意見交換を行ってきました。2018年2月には、慶應義塾大学の教員・学生による大崎町フィールド調査も実施しました。また、大崎町は、玉村教授に、地方創生に関するアドバイザーを委嘱し、大崎町の地方創生や地域活性化、未来戦略に資する助言を得ることとしました。
5. 鹿児島相互信用金庫は、2015年11月、大崎支店の建替えに伴い、旧店舗の施設を地域創生のために活用することとし、「おおさきマルシェ」をオープンしました。
6. 鹿児島相互信用金庫は、SFC研究所の助言のもとで、長島町と共同で「ぶり奨学プログラム」の研究開発を推進し、2015年11月、出身の生徒・学生が長島町に戻ってきた場合、元利金相当額を補填する「ぶり奨学金制度」における「ぶり奨学ローン」の取り扱いを開始しました。
7. 鹿児島相互信用金庫とSFC研究所は、2017年8月、未来社会を先導する人材育成と、活力ある地域社会の形成、実学の促進に寄与することを目的として、「地域おこしに関する連携協定」を締結しました。また、鹿児島相互信用金庫は「そうしん地域おこし研究所」を設置しました。2018年4月には、「そうしん地域おこし研究所」の職員が慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科に入学し、鹿児島の未来に資する研究開発に従事しています。
8. 大崎町は、「ぶり奨学プログラム」を参考に、「リサイクルのまち」のチカラを活かした「リサイクル奨学パッケージ」や各種の地方創生のあり方を、玉村教授の助言を得ながら、検討してきました。また、大崎町から、鹿児島相互信用金庫に、各種の知見の提供や協力を相談してきました。
9. 大崎町・鹿児島相互信用金庫・SFC研究所は、2018年4月、これまでの経緯を背景に、より本格的な共同での研究開発を行うために、本連携協定を締結しました。

(参考 2) 今後の共同開発事項について

(1) 「リサイクル奨学パッケージ」の研究開発・推進・普及に関する事項

大崎町は、地域を挙げた「ゴミの資源化」によるリサイクル事業から、安定的な収益が得られています。住民力により確保した収益を、未来を担う大崎町の子どもたちが世界各地で活躍すること、そして、将来的には大崎町に戻り、さらなる活躍することを支援する、以下の仕組みを検討します。

- ① リサイクル未来創生奨学ローン
- ② リサイクル未来創生奨学基金
- ③ リサイクル未来創生奨学寄付制度
- ④ リサイクル未来創生奨学交流事業
- ⑤ リサイクル未来創生就職起業支援事業

特に、持続性があり、関係主体それぞれにメリットのある「③寄付制度」の研究開発も推進します。

(2) 新しい生涯学習の取組みや賑わい創出等、大崎町の地方創生や地域活性化に関する事項

鹿児島相互信用金庫の店舗や施設等のプラットフォームを活かした地域創生などを共同で検討します。

(3) 地方創生や地域おこし、社会イノベーションを担う人材の育成と交流に関する事項

例えば、慶應義塾大学の学生によるフィールドワークやインターンシップ、商品開発等への大崎町と鹿児島相互信用金庫の支援や協力、大崎町職員による研究開発に対する慶應義塾大学教員による助言・指導や、鹿児島相互信用金庫による協力、大崎町における「地域おこし研究員」の任用などを検討します。

(4) 大崎町の地方創生、地域活性化、グローバル戦略、未来戦略に関する事項

「大崎町リサイクル未来創生会議」を発足させ、共同での研究開発や実践に取り組みます。

また、大崎町におけるSDGs（持続可能な開発目標）に関する検討や活動にも、協働で推進します。